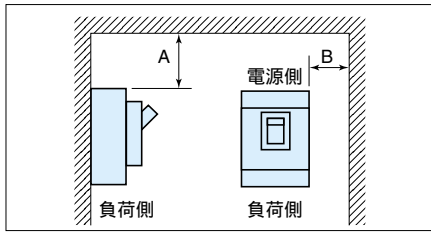


アークスペース



(配線用遮断器)

フレームサイズ	最小寸法 (mm)	
	A	B
75AF以下	30	25
100~250AF	50	40
400~800AF	80	50
1000AF以上	150	100

(漏電遮断器)

フレームサイズ	最小寸法 (mm)	
	A	B
75AF以下	30	25
100~250AF	50	40
400~600AF	80	50
800~1200AF	150	100

■ ご注意

遮断器が大電流を遮断したとき、電源側の排気孔からアークガスが噴出します。この排気孔のすぐ近くにしゃへい物や導電材がありますとこの部分でアークによる短絡や、地絡事故を起こす可能性があります。このため遮断器取付にあたっては表に示すアークスペースが必要です。

■ 電源、負荷の接続

【配線用遮断器】

正接続を基本としています。逆接続をした場合は、遮断性能が低下するおそれがありますので避けてください。

ただし、次の器種は逆接続可能な器種です。

(逆接続可能器種)

配線用遮断器	B-1EA、B-2EA、B-1HEA、B-2HEA、B-2HA、BCN-1H、BCN-2H、BCS-1H、BCS-2H、BCT-1H、M-33KA、B-32KA、B-33KA、M-53KA、B-52MKA、B-52KA、B-53KA、B-62KA、B-63KA、B-102KA、B-103KA、B-33MEA、B-32EB、B-33EA、B-52EB、B-53EA、B-62EB、B-63EA、B-102EA、B-103EA、BU-403・1EA
漏電遮断器	GB-1ZA、GB-2ZA、GB-2EA、GB-403EA、GBU-403・1EA、

周波数による特性変化【配線用遮断器】

高周波電流(400Hz、750Hz等)で使用される場合、うず電流、表皮効果、ヒステリシス損等による発生熱は熱動形でも影響があり400Hzでは時延引外し電流が約80%に低減されます。また、鉄損による吸引力低下により瞬時引外し電流は大きくなり、400Hzでは60Hzの約2倍程度になりますので使用にあたってはご注意ください。完全電磁形においては可動鉄心における発熱、うず電流損による吸引低下等により使用はできません。

JIS C 8370 標準使用状態
【配線用遮断器】

遮断器は次の標準使用状態で使用されるものとする。

- 周囲温度は - 5 ~ 40 の範囲内。ただし24時間の平均値は+35 を超えないものとする。
- 標高2000m以下。
- 相対湿度は45 ~ 85 %の範囲内。
- 異常な振動及び衝撃を受けない状態。
- 過度の水蒸気、油蒸気、煙、じんあい、塩分、腐食性物質等が存在しないふん囲気。

JIS C 8371 標準使用状態
【漏電遮断器】

遮断器は次の標準使用状態で使用されるものとする。

- 周囲温度は - 10 ~ 40 の範囲内。ただし24時間の平均値は+35 を超えないものとする。
- 標高2000m以下。
- 相対湿度は45 ~ 85 %の範囲内。
- 異常な振動及び衝撃を受けない状態。
- 過度の水蒸気、油蒸気、煙、じんあい、塩分、腐食性物質等が存在しないふん囲気。

【漏電遮断器】

遮断器に「電源側」と「負荷側」の区別がある器種は逆接続ができません。必ず表示にしたがって接続してください。逆接続不可の器種において逆接続しますと遮断器が動作した場合、トリップコイルが焼損します。ただし、次の器種は逆接続可能な器種です。

安全ブレーカの溶ダーレス端子
GB-1ZA・2ZA、2EAの溶ダー
レス端子への直付接続について

- より線はほぐして、芯線をそろえてから接続してください。
- より線のハンダ上げやバインドはしないでください。
- 電線の絶縁被ふくをかまない様に接続してください。
- 機器用電線など、3.5mm²以下の細いより線を使用する場合は、棒圧着端子をご使用ください。

電線ストリップ寸法について

パールミニブレーカ、パールミニ
漏電ブレーカの接続方法

電線ストリップ寸法について

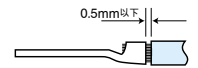


■ 接続方法

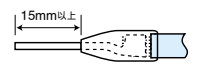
- ① 被覆を6mmむく



- ② 圧着端子に通し
かしめる



- ③ 絶縁キャップを
かぶせる



適用電線

より線 3.5mm² ~ 5.5mm²

適用圧着工具

ニチフ製NH1、NH9、NA3(NA37)
または同等品

ブレーカへの圧着端子の接続方法

■ 2個接続の場合

- ① 上下背あわせに接続してください。
- ② 圧着端子の大きさがちがう場合は、大きい方を下側に接続してください。

